

# TRAFFIC SCOPE

「TRAFFIC SCOPE」は交通参加者の行動観察を通じて、ドライバーやライダー、自転車利用者、歩行者に守るべきルールがあることを再認識してもらうための連載記事です。

交通参加者の行動を観察する

## 高速道路のサービスエリアの駐車スペースを歩く親子連れの行動を観察する

### DATA 基礎情報

駐車場で交通死亡事故が  
発生することがある

2022年の交通事故件数30万839件のうち1万3087件は、大きな駐車場など一般交通の場所（高速道路、国道、都道府県道等に付属して設けられたサービスエリア、パーキングエリア、道の駅等を含む）で発生し、死亡事故も86件起きている。

特に身体が小さい子どもは、駐車場に並んでいるクルマの死角に入り、ドライバー・ライダーから見落とされやすい。そのため、同伴している保護者が子どもの安全に配慮しなければならない。

今回は駐車場内を歩く親子連れに注目。夏休みで帰省や帰郷に向かうため利用が増え始める8月上旬に、中央自動車道（中央道）談合坂サービスエリアの駐車スペースで幼児・小学生とその保護者の行動を観察した。

### WATCHING 観察

保護者に付いて歩く子どもは  
安全確認をしない

観察日の談合坂サービスエリアは、帰省や観光地に向かうと思われる家族連れが多く、駐車スペースは常に混雑しており、駐車待ちをするクルマの列ができる時間帯もあった。2時間の観察中、駐車したクルマから降車した子どもは109人で、このうち保護者より先に降車した子どもは17人（15.6%）。降車後、保護者と手をつなぐずに歩いていた子どもは47人（43.1%）だった。また、左右の安全確認（サービスエリアの施設直前の道路を横断する時に観察）については、ほとんどの子どもが確認をしていなかった。

幼児が降車する際は、保護者がチャイルドシートのベルトを解除する必要があり、幼児が保護者より先に降車する場面は見られなかった。

降車してから施設へ向かう際、幼児のほとんどは保護者と手をつないでいるか、抱っこされていた。しかし、小学生では自分でドアを開けて保護者より先に降車するケースも見られた。中には、子どもだけでサービスエリアの施設へ向かう様子や、小学校低学年と思われる子どもが、クルマが停車するとすぐにドアを開けてトイレに向かって走っていく姿が見られた。

保護者と手をつないでいたり、保護者に付いて歩く子どもは道路を横断する際、保護者が左右の安全を確認するため、子ども自身が確認することはほとんどなかった。



幼児と手をつなぐず、先に行ってしまう保護者もいた

### ADVICE アドバイス

子どもは周囲を見ていないことを  
前提とした危険予測が必要

サービスエリアにおいて、子どもは左右の安全確認をしないことが多かった。保護者の横や後ろを歩く子どもは、保護者に付いていけば安全だと思っていると考えられる。子ども単独で歩いている場合は、売店やトイレに行くことに意識が向いているようだった。観察日のような混雑している状況では、ドライバーが駐車する場所を探すことに気を取られてしまい、駐車車両の死角から出てくる歩行者を見落としてしまうこともある。また、クルマに戻る際には、駐車した場所がわからな

くなった保護者がクルマを探すことに夢中になり、子どもを気遣う余裕がなくなっている場面も見られた。小学生といえども、子どもを先に降車させ、子どもだけで行動させてしまうのは危険に感じられた。

子どもが事故に遭わないためにも、サービスエリアをはじめ、クルマやバイクが頻りに往來する駐車場では保護者が子どもと手をつなぎ、車道への飛び出しを防ぐことが大切である。その上で、子どもにクルマやバイクが来ていないか、自分の目で確かめるよう促すことも事故に遭う危険を減らすことにつながるだろう。一方、ドライバー・ライダーは駐車場内の歩行者に十分注意し、子どもは周囲を見ていないことを前提とした危険予測を心がけてほしい。

### 観察結果

#### 観察場所

山梨県上野原市 談合坂サービスエリア（中央道・下り）  
観察日／8月8日（火）  
観察時間／10:00～12:00  
天候／曇り



夏休み期間中で談合坂サービスエリアの駐車スペースが混雑していた

#### ●子どもの降車状況（人）

	子どもの年齢層			合計
	幼児	小学1～2年生	小学3～6年生	
子どもが先に降車	0	6	11	17 (15.6%)
子どもが後に降車	39	22	31	92 (84.4%)
合計	39	28	42	109

#### ●子どもと保護者の手つなぎ状況（人）

	子どもの年齢層			合計
	幼児	小学1～2年生	小学3～6年生	
つないでいる（抱っこ含む）	38	13	11	62 (56.9%)
つないでいない	1	15	31	47 (43.1%)
合計	39	28	42	109

#### ●子どもの安全確認状況（人）

	子どもの年齢層			合計
	幼児	小学1～2年生	小学3～6年生	
確認した	0	3	2	5 (4.6%)
確認しなかった	39	25	40	104 (95.4%)
合計	39	28	42	109

\*観察対象は乗用車でサービスエリアに来場した子ども（バスでの来場者は除く）。幼児、小学1～2年生、小学3～6年生の判断は観察者の見解による。



自分が先に降車した後、子どもを降ろし、手をつないで歩く保護者



保護者に付いて歩く子どもは自分で左右を確認しないことが多かった



先に行こうとする子どもの手をつかみ、安全確認を促す保護者



小学生では自分でドアを開けて、保護者より先にサービスエリアの施設に向かうケースも見られた



スマートフォンで通話しながら前を歩く保護者は道路横断前の安全確認を怠っていた